

令和8年度 学校経営計画書（全日制）

学校番号	51	学校名	静岡県立島田商業高等学校（全日制）	校長名	松永 恭介
------	----	-----	-------------------	-----	-------

1 スクール・ミッション

志太・榛原地区の商業教育の拠点校として、身近な課題を発見し、解決に向けて主体的にチャレンジする教育活動を通して、地域社会で活躍できる生徒の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>商業の専門高校として「身近な課題を発見し、解決に向けて主体的にチャレンジすることで、地域社会で活躍する生徒」を育成します。</p> <p>(1) 職業人に求められる倫理観、ビジネスマナー、ホスピタリティを習得するとともに、商業に関する専門性を持つ生徒を育成します。</p> <p>(2) 身につけた知識・技術を活用し、地域や社会に応用・実践しながら、他者と協調して取り組むコミュニケーション能力とチャレンジ精神を持つ生徒を育成します。</p> <p>(3) より良い地域社会の構築を目指して主体的に学び、探究活動、部活動、特別活動、商業教育、キャリア教育を通して豊かな人間性を持つ生徒を育成します。</p>	<p>基礎学力の定着を図るとともに、専門教科の協働的で実践的な学びを通して、これからのビジネス社会に必要な力を育成します。</p> <p>(1) 基礎学力の定着を図り、商業の専門性を深化させ、生徒の適性・特性に応じた進路実現に即した教育課程を実現します。</p> <p>(2) 地域の産業界や各機関と連携し、体験的・実践的な学習活動を実施します。</p> <p>(3) ICTを活用し、「主体的・対話的で深い学び」のある授業を実施します。</p> <p>(4) 部活動・特別活動・課題研究等の探究活動・キャリア教育を通じて、豊かな心と健やかな体を育成する教育活動を実施します。</p>	<p>本校では、入学時に次のような生徒を求めます。</p> <p>(1) 自分自身の存在を肯定し、途中であきらめず、失敗を恐れず自分で考え、行動しようとする生徒。</p> <p>(2) 身近な課題に主体的にチャレンジし、地元で活躍したいと考えている生徒。</p> <p>(3) 商業（ビジネス）活動に関する興味・関心と意欲を持ち、粘り強く資格取得を目指し、自分の夢に向かって邁進できる生徒。</p> <p>(4) 生徒会や部活動、地域ボランティア活動などに積極的に取り組み、学校生活を活気あふれる有意義なものにしていきたいと考えている生徒。</p>

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 授業改善（主体的・対話的で深い学び）を通じた生徒の基礎学力の定着
- イ 商業の専門性の深化と高度な資格取得による、確かな進路実現の推進
- ウ 地域と連携した探究活動による、地域で活躍する人材の育成
- エ 安心安全な学校作りと、豊かな人間性・規範意識の育成
- オ 管理運営の効率化と、教職員の資質向上・働きがいのある職場づくり

(3) 「島商力」について

身近な課題を発見し、解決に向けて主体的にチャレンジし、地域社会で活躍する人材を育成するため、学びを通して身につけさせたい「3つの力」を定義した。

- ア 「自ら動く」自ら見つけ判断し主体的に挑戦する
- イ 「つながる」自他を大切にし、協働するコミュニケーション
- ウ 「やり抜く」自分を信じ、最後まで粘り強く

様式第1号

2 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	(ア)客観的な分析と共有に基づく組織的な授業改善の推進	「学びの基礎診断」の実施と組織的な指導の展開	「学びの基礎診断」等により、進路実現に向けた学習意欲が高まった。 生徒：75%以上	進路支援 各学年
			「学びの基礎診断」等により、得意・不得意が明確になり、学習計画に活かすことができた。生徒：75%以上	各学年 全教員
			学校は、生徒の得意・不得意を把握し、それに対応した指導を行っている。 保護者：75%以上	学習支援 全教員
			「学びの基礎診断」等の結果を共有し、指導法の工夫や組織的な補習など、具体的な授業改善につなげた。 教職員：90%	
			授業アンケートや普段の対話を通じて、生徒の意見が授業の改善に反映されている。生徒：80%以上	
	観点別評価と生徒の声を活用した授業改善	観点別評価の分析や生徒の声を、教員自身の指導技術の向上や授業実践の更新に具体的に活かしている。 教職員：90%以上		
		(イ)多様な学習リソースの活用による言語能力の向上と指導法の工夫	図書館を活用した読書指導による読解力・語彙力の育成	年間3冊以上の本を読むことができた。生徒：70%以上
	図書館の活用や朝読書等を通じて、昨年度よりも本に親しむ時間が増えた。 生徒：50%以上			学習支援
	図書館の活用や読書を通して、自分の考えを言葉で表現する力が向上したと感じる。生徒：80%以上			
	学習支援ツールの効果的な活用	学習支援ツールの効果的な活用	授業では、一人一台端末や学習支援ツールを利用する場面が多い。生徒：95%以上	学習支援 全教員
学習支援ツールを、生徒の思考を可視化したり、個別の状況を把握したりするための有効な手段として活用している。教職員：90%以上				
(ウ)UDの定着と新たな学習環境の整備	UDの定着と学びの質の深化	授業では、自分の課題(授業内容)に集中し、学ぶことができています。生徒：90%以上	学習支援 全教員	

様式第1号

			UDの定着を基盤として、生徒が自ら課題を見つけ、主体的に学びを広げる仕掛けを工夫した。 教職員：90%以上	
イ	(ア)高度な専門的技術の習得と組織的な資格取得支援の強化	商業の専門性の深化と組織的な資格取得指導	生徒の習熟度に応じた資格取得意欲を高め、専門的な知識・技術指導を行った。 教職員：90%	商業
			柔軟な環境整備を通して、資格や検定に挑む生徒を、組織的に支援した。 教職員：90%	各学年 全教員
			自身の習熟度に応じた資格取得に向け、意欲的に取り組むことができた。 生徒：90%以上	商業 各学年
			学校は、資格取得に向けて、組織的で手厚い指導を行っている。保護者：80%以上	
	(イ)横断的な学びによるビジネス実践力の育成	科目横断・他教科横断による総合的な実践力の育成	ビジネスを考える上で、商業科目の繋がりや他教科の知識の必要性を実感した。 生徒：85%以上	学習支援 全教員
			ビジネス社会に必要な力の育成として、他教科・他科目との繋がりを意識した授業設計や教材開発に取り組んだ。教職員：90%以上	
(ウ)自己理解に基づくキャリア形成と進路実現の推進	自己理解の深化と将来を見据えたキャリア形成の支援	個に応じた進路目標の具現化と全校体制による伴走支援	自分の強みや適性を理解し、将来の目標を具体的に描くことができた。生徒：75%以上	進路支援 各学年 全教員
			進路に関する悩みや手続きについて、相談できる教員がいる。生徒：80%以上	
			学校は、生徒の進路希望を尊重し、進路実現に向けて最後まで粘り強く支援している。保護者：90%以上	
			進路支援課と学年が密に連携し、生徒一人ひとりの志望に応じた個別最適な支援を行っている。教職員：90%	
ウ	(ア)地域社会の現状把握と課題発見力の育成	地域人材との交流による多角的視点の獲得	地域で働くプロとの交流を通じ、実社会で必要な視点や課題意識を考えることができた。生徒：85%以上	商業 探究

			外部との連携や教材の工夫により、生徒が実社会の課題を『自分事』として多角的に捉えられる学びの場を創出した。教職員：90%以上	
	(イ) 地域資源を活用した系統的な探究活動の充実	「総合的な探究の時間」及び「課題研究」による地域課題への挑戦	授業(探究・課題研究)を通じて、地域の課題解決に向けた仮説を立て挑戦した。 生徒：80%以上 生徒が自ら問いを立て、試行錯誤できるよう『伴走者』として組織的に支援した。 教職員：90%以上	商業探究 各学年
	(ウ) 地域参画を通じた郷土愛と実践力の向上	地域社会への参画と社会貢献意識の醸成	地域の活動を通じ、自分の行動が誰かの役に立ったり、街を元気にしたりすることに喜びを感じた。 生徒：80%以上	総務探究
		専門知識を地域社会で活用する実践力の向上	授業で学んだ専門的な知識・技術が、実際の社会で『役に立つ』と実感することができた。生徒：85%以上 学校は、地域の教育資源を活用したり、地域に貢献したりする活動を積極的に行っている。保護者：80%以上	
エ	(ア) 心身の健康増進と学びの基盤となる生活習慣の確立	健康増進に向けた自己管理能力の育成	朝食や睡眠などの生活習慣を大切にし、体調を整えることを心掛けている。 生徒：90%以上 生徒が自ら健康管理を意識できるよう、継続的な働きかけや指導を行った。 教職員：90%	生徒支援 各学年
	(イ) 社会人としての信頼を築くビジネスマナーと職業人意識の向上	島商ビジネスマナー「あ・き・な・い」を通じた職業人としての資質向上	『あ・き・な・い』を、将来の自分への信頼に繋がるマナーとして習慣にしている。生徒：90%以上 『あ・き・な・い』の定着に向け、意識を高める声掛けや指導を行っている。 教職員：90%	生徒支援 各学年 全教員
	(ウ) 自律的な規範意識の醸成と豊かな社会性の育成	「You I(友愛)time」による校則の見直しと自律心の育成	『You I(友愛)time』での対話を通じ、ルールの意味を自分事として考え、納得感を持って守る意識が高まった。生徒：90%以上 生徒との対話を尊重し、自律的にルールを運用しよう	生徒支援 各学年

様式第1号

			とする主体性を支えた。 教職員：90%	
		行事や部活動を通じた協調性とコミュニケーション能力の育成	行事や部活動の経験を通して、集団の中で協力し、目標を達成する大切さを感じた。生徒：90%以上	生徒支援 全教員
	(エ) 安心安全な教育環境の整備	安全で快適な教育環境の整備と維持	学校の施設・設備が安全に保たれており、安心して活動に専念できている。 生徒：95%以上	学習支援 総務 事務
			学校は、安全点検や防災対策を適切に行い、生徒が安心して過ごせる環境を整えている。保護者：90%以上	
オ	(ア) 持続可能な校務運営の推進	組織的な業務精査と持続可能な校務運営の推進	I C T活用や業務の効率化により、生徒と向き合う時間を生み出そうとする改善が進んでいる。 教職員：90%以上	管理職 情報担当 全教員
		休暇取得の促進と部活動の適切な運営	互いに協力して休暇を取りやすい環境を整え、ガイドラインに沿った適切な部活動運営に努めている。 教職員：90%以上	管理職 全教員
	完全退庁時刻を意識した業務管理を心掛けた。 教職員：90%以上			
	(イ) 教職員のウェルビーイングの向上と組織風土の醸成	心理的安全性が高く風通しの良い職場文化の醸成	教職員相互の心理的安全性を確保するために自身の行動を意識した。教職員：90%	管理職 全教員
互いの実践を認め合い、職務への誇りとやりがいを育む組織風土の構築		互いの工夫や実践を尊重し合い、島商の一員として前向きに教育活動に取り組んでいる。教職員：90%以上		
			職務にやりがいをもって取り組むことができた。 教職員：90%以上	
	(ウ) 事務部との連携による教育環境の最適化	事務部との連携による適正な予算執行と環境整備	事務部と教員が緊密に連携し、教育環境の最適化を図っている。教職員：100%	事務 全教員

(記入上の留意点)

1 (1) (2) の欄は、単に校訓や抽象的な理念にとどまらず、学校の特色を明解に表現すること。また、具体的な重点項目が外部の方にもわかりやすいよう、工夫して記載すること。